道徳科　学習指導案

日　時　令和　５年　５月２２日（月）
13：20～14：05　（５校時）
児　童　帯広市立豊成小学校　３年２組　３０名
授業者　教諭　阪本　智

１、主題・内容項目　「よい友達とは」　Ｂ　友情・信頼

２、ね　ら　い　主人公と実さんの友達関係について考えることを通して、友達と助け合うことの意味やよさ、よい友達関係とは何かを考えようとする道徳的心情を養う。

３、教　材　名　「なかよしだから」（新訂　新しいどうとく　３　東京書籍）

４、主題設定の理由

（１）主題と児童のかかわり

Ｂ「友情・信頼」の学年段階ごとの内容項目は以下の通りである。

〔第１学年及び第２学年〕
友達と仲よくし、助け合うこと。
〔第３学年及び第４学年〕
友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。
〔第５学年及び第６学年〕
友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。
（中学校）
友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

本内容項目は、四つの視点のＢ「主として人との関わりに関すること」に含まれる。学習指導要領には「友達関係における基本とすべきことであり、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことに関する内容項目である」と記されている。また、中学年の指導の要点として「友達とのよりよい関係の在り方を考えたり、互いに助け合うことで友達の大切さを実感したりすることが出来るように指導することが大切である」とあることから、本主題を設定した。

内容項目に関する学級の実態を簡潔にまとめると、以下の通りである。

初めてのクラス替えにより、これまでとは異なる人間関係の中で班活動や休み時間の遊びをきっかけに少しずつ新しい関係を築き始めている段階である。友達との関わりは「一緒に何かに取り組むこと」という経験がほとんどで、内容項目にあるような深い意味で互いに信頼し合ったり協力し合ったりする友達関係の経験は少ないことが予想される。

以上の実態から、本時では特に協力することの意味について深く思考を掘り下げるとともに、より良い友達関係の在り方を考えることで「友情・信頼」の内容項目について道徳的価値を深化する時間とする。

（２）教材について

中心教材は「なかよしだから」（新訂　新しいどうとく　３　東京書籍）である。主人公とその友達の実さんの関係を見ていくことで、より良い友達関係について考えられる物語である。また、実さんの『なかよしだから、なお教えられないよ。』という台詞に関してはそれ以上の説明が無く、主人公もその意味が理解できず考え込んでしまうところで物語が終わる展開になっている点など、道徳的諸価値に関する視点で深く考え、議論することができる要素を多く含んでいる。教科書では教材文の前には「もんだいを見つけて考える」「考えながら読もう」、後には「考えるステップ」という発問や授業展開の具体的な案が記されている（３年生の教材で同じように展開案が明記されているものは他にはない）が、既存の展開にとらわれず本学級の児童の実態やねらいに合った授業展開とするため、発問や学習活動の組み立てを工夫したい。

５、本時の学習

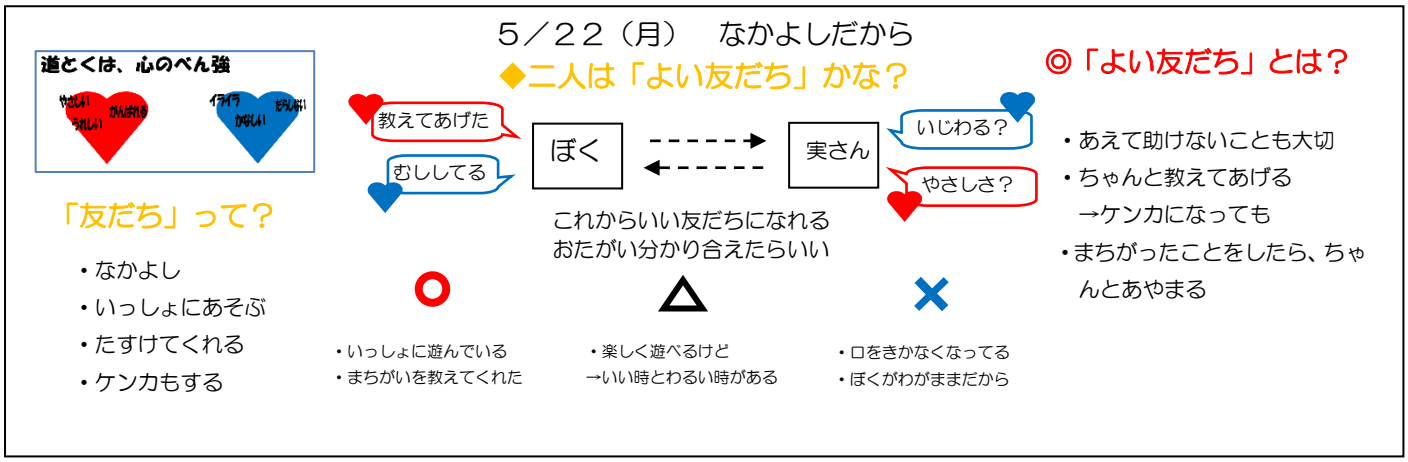
（１）本時のねらい

主人公と実さんの友達関係について考えることを通して、友達と助け合うことの意味やよさ、よい友達関係とは何かを考えようとする道徳的心情を養う。

（２）本時の展開

	学習活動　◎中心発問　○発問　・予想される反応	●教師の関わり　※評価の視点
導入（５分）	①道徳の授業への導入 **○どうとくは、どんな勉強かな？** ・「こころ」の勉強だよ。 **○どんな心があったかな？** ・優しい、楽しい、立派、悲しい、悪い、だらしない… ②本時の内容項目への導入 **○今日の勉強は…「友だち」について。「友だち」って、どんなもの？** ・仲よしな人　・一緒に遊ぶ　・助けてくれる　・ケンカもする… **○今日は、「友だち」について、色々と考える勉強をしていきます。**	●道徳は「心」の勉強であること、今まで考えた「心」は何かを確認する。 ●「友達」について、授業冒頭時点での児童の考えをいくつか発言し、共有する。 ●授業全体のテーマを大まかに確認する。
展開前段（２０分）	③範読 ④教材「なかよしだから」について話し合う。 **○お話の中に、「友だち」はいましたか？** ・「ぼく」と実さん。 **◎二人は、「よい友だち」ですか？** ・口を聞かなくなっているから、よい友だちじゃない。 ・ぼくが勝手なことを言っているから、よい友だちじゃない。 ・前の日は一緒に遊んでいるから、本当はよい友だち。 ・間違ったことをしようとしているのを止めてくれたから、よい友だち。 ・いい時と悪い時があるから、どちらとも言えない。 **○補助発問（例）** ・実さんが答えを教えなかったことは、いいことだった？いいことをしたのなら、よい友だちなんじゃない？ ・実さんが答えを教えていれば、よい友だち？ ・昨日までもよい友だちではなかったのかな？ ・もう二人は、よい友だちの関係にはなれないのかな？ ・どうなれば、いい友だちと言えるのかな？	●範読 CD（タブレットにて再生）を活用し、その間に必要事項を板書する。 ●テーマと中心発問を繋ぐ最低限の問いかけをする。 ●細かい教材内容の確認を省き中心発問を行い、（テーマ発問型授業）ノートに記入する。※備考参照 ●肯定、否定意見の他に「どちらとも言えない」等の中間意見が出ることが予想されるため、机間指導で見取り指名計画を立てる。挙手発言だけでなく意図的な指名や挙手による立場の表明（賛成か反対か）等も適宜行い、全ての児童が授業に主体的に参加できるよう働きかける。 ●教師は児童の思考が深まるよう、出された意見を板書に構造化する。 ●授業展開によって、問い返しや補助発問を行ったり、ペアや小集団で話し合う機会を臨機応変に設ける。 ※自他の考えを比べながら、よい友達関係について考えているかどうか。
展開後段（１５分）	⑤自分と結び付け、「友だち」について話し合う。 **○「よい友だち」とは、どんなもの？** ・本当に大切なことは、あえて助けないことも大切。 ・間違っていることは、たとえケンカになってもちゃんと教えてあげる。 ・正しいことを言われて腹が立っても、ちゃんと謝ったり感謝したりできるといい。	●ペアや小集団で話した後、発表する。出された意見を適宜取り上げて共有したり、より深く掘り下げて考えたりする。 ●道徳的価値と自己を結び付けて考えるため、導入で出された意見を広げたり、より深化して捉えたりする。
終末（５分）	⑥本時の学習について振り返る。 **○今日は「友だち」について勉強したよ。最後に、振り返りをしましょう。**	●今日の学習を大まかにおさらいし、振り返りに進む。教材文への感想ではなく、一時間を通して学んだことへの感想をもつよう声かけを行う。 ※よい友だち関係について、多面的・多角的に考えたり、自己の生き方について考えを深めたりしているか。

（３）板書計画　※教師の想定の一例。児童の発言、話し合いによって変わる場合もある。



６、備考

（１）道徳科の授業における主な取組

①発問の吟味⇒「テーマ発問」型の授業により、内容項目について深く議論する

…「場面発問」の繰り返しであったり、「当たり前のこと」を聞いたりするのではなく、本時の内容項目について深く議論し、理解を深める時間となる授業展開を目指している。

「〇〇〇（登場人物の名前）と△△△は本当の友だちか？」「お話の中には、どんな美しい心があったか？」など、内容項目の本質や、自己の生き方に迫る問いを中心発問として投げかける、「テーマ発問」型の授業展開を行う。

②言語活動の充実

…中心発問に対し、第一に自分の意見をもつために「書く」時間を保証する。その後全体交流の時間を多くとり、自分の意見を話し、友達の意見を聞くことで内容項目について深く考える機会を設けている。児童は、友達の意見や、教師から問い返された事について話し合う中で繰り返し思考し、本時の内容項目について考える。展開後段では教材から離れ、内容項目により迫る発問を投げかける。後段では、小集団での話し合いの形態を多くとっている。最後に授業についての振り返りを「書く」機会を保証し、児童の思考が個人→集団→個人と流れる展開とする。

③板書の工夫

…児童の思考を助けるために、構造的な板書の工夫を心掛けている。横書きで板書し、発言の順ではなく似た考えを類別したり、道徳的価値について授業で話し合われたことを視覚的に捉えられるようにまとめたりする。

（２）道徳科の「学び方」の指導に関して

①何を学ぶのかを明確にする

…答えが多岐に渡る道徳科の時間は「何を学ぶ時間なのか」を教えなくてはならない。道徳的価値について学ぶ時間であることを、「道とくは、『心』のべん強なんだよ」「お話を読んで、色んな『心』について考えようね」と、児童に分かりやすく伝えるようにしている。

②どう学ぶのかを少しずつ身に付ける

…道徳科の授業で「考える・議論する」ためには、児童に「学び方」を指導する必要がある。例えば、登場人物の心情をハートや矢印を用いて可視化したり、「親切」や「礼儀」など道徳的諸価値の視点で人物の言動を分析的に読み取ったりすることである。 板書の構造化や児童の発言の類別（ファシリテート）を通して、児童に思考を深めるための「ツール」を繰り返し指導していく。

③「分かる」「楽しい」を実感できる

…テーマ発問型授業を行うための素地作りとして、あまり抽象度の高くない発問も適宜取り入れている。教材から確実に読み取れることに取り組ませ、児童が具体的な達成感を感じられるような発問を心がけている。

⇒『具体化・細分化した発問』

例：「あつしくんの『思いやり』は何かな？」⇒「あつしくんのいいところは？」

「主人公が感じた、働くことの意味は？」⇒「お話の中に、『仕事』について考えている心はあるかな？」